

研究主題

基礎基本を身に付け、学び合う子どもたちの育成
～教えて考えさせる算数の授業（OKJ）実践を通して～

児童の実態

【低学年】

- ・繰り上がり繰り下がり
の計算では、指をつか
って考える児童が概
ねである。
- ・定着度に個人差が
ある。

【中学年】

- ・応用問題になるとつ
まづく児童が多い。
- ・主体的ではなく、「や
らされている感」を
感じている児童が
いる。

【高学年】

- ・数的感覚が弱い
- ・計算の得意、不得
意の差がある。
- ・計算の基本が身に
ついていない。
- ・学習意欲の停滞が
見られる。

課題

- ・基礎基本の計算力の向上、定着
- ・文章問題の理解
- ・計算問題に対して苦
手意識をもっている
児童の意欲

目指す児童像

基礎的な計算問題が正確にできる子

【低学年分科会】

- ・基礎的な計算が正
確にできる子
(2年 かけ算九九)
(1年 たし算 ひき算)

【中学年分科会】

- ・基礎基本を使って
応用問題を解くこと
ができる子
- ・日常生活で学んだ
ことを生かそうと
する子

【高学年分科会】

- ・計算問題を正確に
、速く解くことが
できる子
- ・自分の考えを指揮
や言葉、図で表す
ことができる子

研究仮説

「予習→知っておこう・ポイント→確かめよう→深めよう」という OKJ の授業の流れで学習させることで、計算の仕方を理解し、問題に取り組み、成果を確かめ、習熟していく中で、基礎基本の定着を図ることができるだろう。

研究授業

【低学年分科会】 第1学年 単元名「ひきざん」

(手だて)

- ・既習事項を生かした学習展開。
10を超える数を分解し、10と幾つ
になるという見方を活用する。
- ・式や図等と結び付けた指導。
ブロックやヒントカードの活用。

(成果)

- ・個々でブロック操作等を行い、理
解を深める様子が見られた。
- ・既習事項を生かしたり具体物を
活用したりすることで、加減法、減
々の計算の違いに気づき、意欲的
に計算に取り組む様子が見られた。

【低学年分科会】 第4学年 単元名「小数のかけ算とわり算」

(手だて)

- ・既習事項と関連付けた学習展開。
- ・式や図等と結び付けた指導。
- ・計算の仕方を他者に説明すること
を通して理解を深めさせる。

(成果)

- ・既習事項と関連付けて考えさせる
ことで、スムーズに理解に結びつ
けることができた。
- ・計算の仕方の説明を児童同士で
行う際、それぞれがノートを見せ
、計算の順序を示しながら伝え
合い、理解を深める様子が見
られた。

【高学年分科会】 第5学年 単元名「分数のたし算とひき算」

(手だて)

- ・既習事項と関連付けた学習展開。
- ・式や図等と結び付けた指導。
- ・児童の関心を引き付ける発問
の工夫。

(成果)

- ・既習事項である「通分」の仕
方を想起させ活用させること
で、異分母の分数計算の仕
方の理解につなげることが
できた。
- ・児童同士が通分の仕方や計算
の仕方を説明し合う活動を通
して、分数計算の理解度を
高めることができた。
- ・学習に取り組む意欲向上が
見られた。

◎ OKJ を通し、児童が学習内容を理解 (Input) し、児童同士が自分の言葉で説明し合う (output) ことで、計算の仕方を着実に身に付けさせられたことと共に、理解度と定着度を高めることができたと考え。